

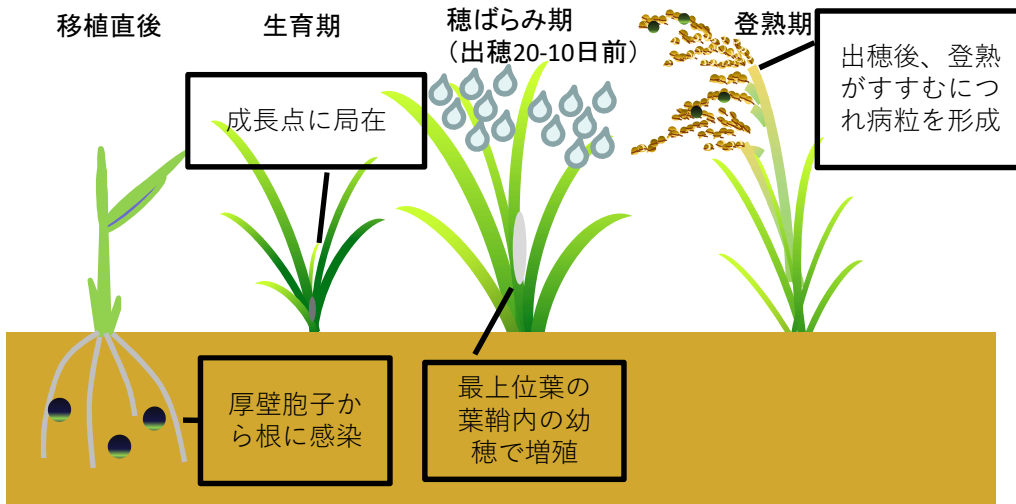
転炉スラグによる稲こうじ病の被害軽減技術の開発

【背景・目的・成果】

稲こうじ病はイネの穂に緑黒色の病粒を形成する病害で、採種ほ等で品質低下の原因となっています。農薬による防除は出穂10~20日前頃に行う必要がありますが、出穂予測と組み合わせる必要があるため、適期を外し防除に失敗するケースがあります。また、この時期に降雨が続くと散布作業が遅れ、防除効果が劣る場合もあります。

そこで、土壌改良資材としてアブラナ科野菜の根こぶ病などの被害軽減効果がある転炉スラグに着目し、効果の検証を行いました。その結果、10アールあたり300~800kgを春先の碎土時期に散布し、よく混和することで20~50%程度、稲こうじ病の被害を軽減できることが明らかになりました。

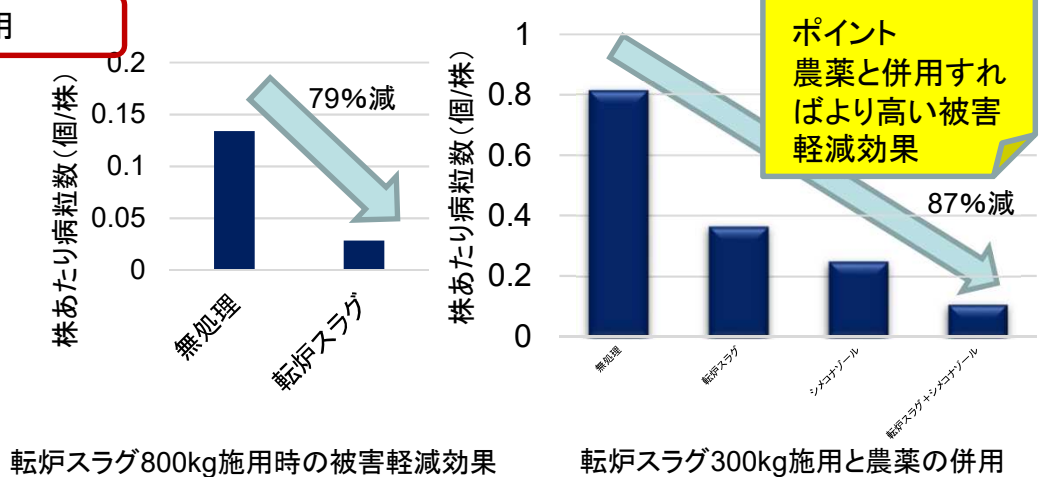
稲こうじ病の発生生態と防除



問題

- ★ 防除適期を逃す農家が存在
- ★ 防除資材は降雨に弱い

転炉スラグの活用



【技術の活用】春先の代かき前に、土壌が良く乾いた条件で、粉状転炉スラグを10a当たり300~800kg均一散布後、よく碎土・混和する。施肥量を10a当たり窒素成分で7.7kg(普通期水稻:灰色低地土)以下に抑制し、過剰生育を避ける。農薬と併用すればより高い被害軽減効果を得られる。

